

12/14

# 産業新聞

## ヒューテック・オリジン

金属表面  
検査装置

# CC向け性能向上

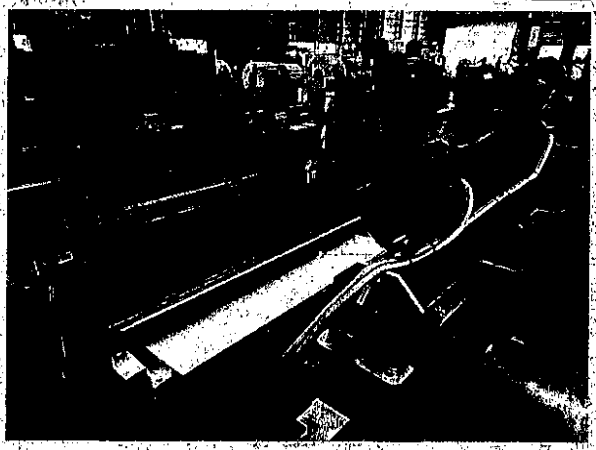
### 鋼板グローバル調達対応

【香川】金属表面検査装置開発・製造のヒューテック・オリジン（本社：香川県高松市、中村孝社長）は、増加する鋼板のグローバル調達に対応するため、コイルセンサー向け検査装置の性能向上を進める。

同社の金属表面検査装置「High Light Re-See」は複数のラインセンサーカメラを使用するCCDカメラ方式で、コイルセンサーのレベラートライン、スリッターラインにインラインで加工する鋼板の傷などの全面自動検査

を行うもの。国内コイルセンサーを中心に約60基の納入実績を持つ。鋼板エトサレによる品質要求の高まりを受け、検査装置の導入を検討するコイルセンサーは増加傾向にあるという。また海外に進出した日系企業のコイ

ルセンサーでも導入事例が増えている。コイルセンサーでは中国・韓国などの輸入鋼板の加工量が増加。国内エトサレの鋼板に比べ品質の劣る輸入材を加工するケースもあり、高精度の表面検査ニーズは高い。これまで



検査装置は引き合いが増えている

で検査装置はコストダウンや安全対策などに重点が置かれていた

が、近年は①鋼板表面の油を検出せずに欠点のみ検出する②電磁鋼

板についてはへこみやどの欠点と穴あきを区別する③微小な欠点の密集度を判定する④黒皮の下の欠点のみ検出する⑤品質に関わる性能要求が多くなっ

ている。こうした要望に応えるため、同社は格子照明など新型照明の採用、画像処理ボードのフィルタ補強・見直しを行うなど製品のパフォーマンスに

取り組む。同社はフィルム印刷、金属表面などの傷色違いといった欠点をインラインで全量検査する画像検査装置の専門メーカー、ヒューテ

ックグループの1社。グループ全体での検査装置の国内シェアは40%に達する。14年12月期のグループ売上高は75億円規模。